

2025/10/11 徳島フォーラム☆感想アンケート 回答集

1) 会場／オンライン、どちらで参加されましたか？

【会場参加】:9/16 【オンライン参加】:7/6 ○回答数:16/22

2) フォーラムに参加して特によかった点、印象に残った点を教えてください。

【会場参加】

- 大学生のキャリア教育には以前から非常に興味があり、何かできないかと思っていましたので、キックオフとして良かったかなと思いました。やはり、小中学生や高校生に比べても、更に課題がありそうです。何をどうしたらよいかは、まだ全く形になっていませんが。
- 学生と、就職に重きを置いたキャリア形成に関する交流ができた。
- 徳島大学の学生と直にお話できたこと
- ありきたりですが、大学と言う場所で学生のみなさんとの対話できたことは、やはり印象に残っています。また、彼らがいくつか質問してくださったこと、その内容も印象に残っています。
- 学生との話の中で興味や就職への考え方を直接聞いたのは良かった。懇親会にも多数が参加してくれて、中澤先生の人徳ですね。
- 進路(就職先)について学生が知りたいことを直接聞き、答えることができたこと。学生との年齢差が大きいため会話が盛り上がるか少し心配していましたが、塾生から行った子供時代の紹介で、雰囲気や和ませることができたことが良かったと思います。
- テクノ未来塾の皆さんのお人柄とその見識を今まで以上に深く知ることができました。
- 学生さんの興味の多くは就活に関することだったのが印象的でした。自分の進路を悩んでいる学生さんのありのままの姿を見ることができて、とても参考になりました。
- 様々な面で学生とのコミュニケーションをとることが出来た。学生によって就職に対する意識や考え方がかなり違っていることが印象的だった。

【オンライン参加】

- 特にない
- 会員の皆さんのさまざまな実体験を率直に語り本音の対話で、双方にとって、生きた学びがあったと思

いました。ウェブ参加ながら、そう感じました。こうした場が広がるステップとなるように感じました。

○これまで知らなかった塾生の意外な一面を知ることができた。

○リモート参加した側として、リアル、リモート参加した塾生アンケートをじっくり読めたこと。リアル参加の塾生のプレゼンを聴けたこと。

○今の学生の意見を聞けたこと

○1. WEB カメラで会場全体の様子を常時見ることができたこと。

2. 学生の質問に対する応答(聞こえた範囲で)。

- ・目線を先に持つとよい。悩むことは悪いことじゃない。次に悩む時、前に悩んだことが生きてくる。
- ・選択肢が多いこと、他の選択肢があることはありがたいこと。悩むことを楽しんで。
- ・自分の書いた文字を自分が見るから、心地よい言葉を書くようにするとよい。

3. 中澤先生の言葉「自分が関わる学生みんなに幸せになってほしいと思っている」。活躍して、ではなく、幸せになって、とおっしゃったのが凄い。感動した。

○学生側は実務技術リーダーらと踏み込んで対話する機会がない、どんなひとで何を考えてやっているのか分からない、その認識のギャップを埋める、というこのフォーラムの趣旨が達成できたと思いました。WEB で聞くだけでも十分に意味がありました。

例えば、互いに生の声が聞け、お互い伝わった、響き合ったように思ったからです。これが他ではないTMJ ならではと思いました。

例えば沢山ありますが、学生の質問に対する応答の例。長文ご容赦ください。

質問:就職面接に際してのアドバイスは。

1. 優秀な人より、職場にあった人が欲しいのが B to B。

2. 感動した本を面接で聞かれたらさりげなく答えられるとよい。

3. 会社が求めるのは、どんな場面でも応用できる基本的な思考法。技術やスキルというより、変化しても応用できる力。今、何ができるかより、「アンテナを立てて、自分のものにできます」と仮設する力。柔軟な姿勢にポテンシャルがある、ということを示す。

質問:大学院に残りたい。迷ってる。どう考えればよいか。

4. 私も同じような事があった、相談したら三年頑張れ。自分が思っているイメージはほんの一部。行って分かることがたくさん。それでダメなら辞めたらいい。

質問:学生時代にとっておくとい資格は何か。

5. よく出る質問だ。学生しかできないことを、やったほうがいい。

質問:企業の選び方、何をポイントにすればよいか。

6. 自分が欲しがっている。と思われるところを探し、行って、相性を見るやりかたもある。

7. 社風は会社によって違う。選択肢を増やして行ってみる。ある意味縁だ。

質問:面接でどういう対応が良いのか。

・質問を待つより、自分より質問をする方にまわる。相手をよく調べた上で、具体的な質問をする。

8. 面接 2000 人やった。例えば採用率 1/10 と 8/10 あったとする。

1/10:ダメ元でいい。シンパシーが取れるかどうかは分かれ目。相手はリアクションで判断する。

取り繕った面接で合格しても、ずっと取り繕い続けられないといけない。ありのままを出した方がいい。

・どっちがハッピーか。給料より自分の心が本当にハッピーか。でも給料か？

9. 8/10=>こっちは、当たり障りのない面接でもオッケー。

10. 自分が会社を採用するというスタンスもある。そのためには、徹底して事前に調べておく必要がある。

11. そして、こっちが選ぶんだというスタンスで臨むという方法もある。

12. どんなことをしても絶対に悩みます。今のご時世、企業はずいぶんホワイトになった。でも、割り切れないことがたくさんあります。

13. これを。危ない時に止めてくれる人がいること。再起不能にならないように、助けを求めて OK でとっておくこと。

14. そのためには、広くコミュニケーションルートを持っておくといい。

15. 会社は結局我々の人生を保証してくれない。自分で人生の保証を決めなければいけない。なんでも相談できる人がいること。広くコミュニケーションルートを持っておくといい。

3)接した学生の反応、印象はどのようだったでしょうか？ わかる範囲でお答えください。

【会場参加】

○最初は少し距離があるように思いましたが、すぐに変わっていった、つまり距離が近くなったように思います。

○主に話したのはグループが一緒だった M1 の K さんと T さんで、二人ともしっかりした大人でした。自分なりのインサイトを得てくれたのではないのでしょうか。

○前向きでとても良かったです。中澤先生のお人柄、接し方の良さを反映したものと思いました。大変明るく、最後のコーナーではいい質問をされていたと思います。

○最初は緊張していたようでしたが、積極的に色々と話をしてくれて好印象でした。

全般的に参加した学生は塾生からの回答を熱心に聞いており、進路を決めていく上で参考にしたいという気持ちを感じました。グループディスカッションの際に同じテーブルだった学生は、ディスカッションの場でしっかり話をしてくれましたが、懇親会でも質問をするなど、積極的に参加している印象を持ちました。

○主な興味関心が「就職」なのか。第 1 部のディスカッションは全く聞き取れず。第 3 部の質問だけで分かる範囲はこのくらい。現地参加者と比較して、1%未満の情報量。

- 先生に言われて参加した学生もいたようですが、お一人お一人持ち味があり、キャリアと人生とも、大きなポテンシャルがあると感じました。
- どうしてもテクノ未来塾側の参加者が体験談を披露する、という場面が増えると思いますので、まず学生のほうから、「今取り組んでいるテーマを具現化するための課題」、「今考えている将来構想やそれを具現化するための方策」、「社会人になったときに取り組んでみたいこと」等に関して自由に述べてもらい、その方向性や疑問点に関して全く異なった業界の先輩と意見交換するというスタイルを実践してみたいかと思いますが。テクノ未来塾側の参加者にとっては学生の柔軟な発想と思いに深く接する機会になる、と思いますし、学生にとっては課題解決の具体論だけではなく異なった視点からの先輩たちの考え方について学ぶ機会となると思います。
- 元気でした。ただ、第一印象と、1 時間話をした後とでは、だいぶ受け止め方が変わりました。こちらの見る目がなかっただけではなく、学生さんの遠慮(警戒心?)が変化したのも一因だと思います。年齢ギャップを越えてコミュニケーションする難しさを感じました。

○世代間ギャップがあっても、社会人としての経験や考え方はかなり参考になったと思います。

【オンライン参加】

- 接していない
- 主な興味関心が「就職」なのか。第 1 部のディスカッションは全く聞き取れず。第 3 部の質問だけで分かる範囲はこのくらい。現地参加者と比較して、1%未満の情報量。
- オンラインではあまり分かりませんでした。
- 女子学生のほうが多いように見受けられた。休日をつぶして参加して下さったことに感謝。
- 先生に言われて参加した学生もいたようですが、お一人お一人持ち味があり、キャリアと人生とも、大きなポテンシャルがあると感じました。

4) 今後学生との共創で、期待すること、改善点があれば教えてください。

【会場参加】

- このような学生との対話で気になるのは、一部に予定調和的な対話・議論で納得してしまうことです。「こうだね」でお互いこうなずくのではなく、それぞれの背景は違う、考え方のベースも違うので、そうしたことも踏み込んで、対話ができればいいのですが、やはり自分たちの知っていることをベースに対話してしまうように感じることもあり、それは大きな改善点と思います。
- 未来塾側の喋り過ぎる人は要反省。そこは手を入れないと、大学生・院生との共創活動は先細りになるかも。期待としては、何回か繰り返したいです。同じ学生さんも入れて。

- 今回の切り口は、内容が明確で関心も高いので双方良いと思います。やり方は色々考えられると思います。
- フォーラムで出たアドバイスのようなものが、例えば就職活動で役に立ったか、役に立ったならどのように役に立ったのかわかれば次に繋がると思います。なお、発表資料の準備のためにはもう少し早く通知し、また資料のフォーマットもある程度決めておいた方が良いでしょう。
- 今回は最初のフリートークで共通点を見つけるという趣旨でしたが、最後は就職の話ばかりになってしまったので、折角取ったアンケートを元に、何かお題を決めた方が話が盛り上がったかもしれません。共創についてはまた次回のチャレンジで。
- 進路について、学生からの質問に塾生が応えましたが、その応えを受けて更に学生から質問し回答する(2 ラウンド目)といった形が取れると、より深い質疑応答になったのではと思います。塾生の回答を受けての質問は直ぐには思い付かないかも知れませんが、2 ラウンド目の質疑応答は休憩を挟んで行ってはと思います。
- どうしてもテクノ未来塾側の参加者が体験談を披露する、という場面が増えると思いますので、まず学生のほうから、「今取り組んでいるテーマを具現化するための課題」、「今考えている将来構想やそれを具現化するための方策」、「社会人になったときに取り組んでみたいこと」等に関して自由に述べてもらい、その方向性や疑問点に関して全く異なった業界の先輩と意見交換するというスタイルを実践してみたいかと思いますが。テクノ未来塾側の参加者にとっては学生の柔軟な発想と思いに深く接する機会になる、と思いますし、学生にとっては課題解決の具体論だけではなく異なった視点からの先輩たちの考え方について学ぶ機会となると思います。
- 向き合って話をするのではなく、同じ方向を向いて何かを一緒にできたらいいですね。その点でも、日曜の現場訪問が叶わなかったのはとても残念です。
何か地域の課題(お題)をいただき、それを学生さん、塾生とで解決をはかる。それを単発ではなく継続的に取り組むといったことができたらいいなとふと思いました。
- 恐らく1日のみのコミュニケーションでは理解度が限られると思うので、こういった取組を何度か繰り返すことによって学生にとって役に立つような意見交換が広がるのではと思います。

【オンライン参加】

- 学生が社会人と対話するのが就職に関する事だけなのは寂しく思った。もっとこれからの社会をどうしていくかなどの未来・社会に向かう対話ができるかよいのではないか。
- 大学も企業も“人材が育たない”という共通課題を抱えているのではないのでしょうか。
こうした場合は、学生が“働くことの意味”を自分の言葉で語る背中を押す場となるように感じます。
愛着があると思われまので、何らかの形で広げることを検討されてはどうかと思いました。
- 人の縁を大切にしてください。学生の期間は短い。私は以前、学生からオファーを受けて、2021 年 10

月 15 日に京大生協 X-academy に登壇しました。2022 年 6 月にテクノ未来塾の理事に、この人脈を活かそうと提案しました。当時の大学側の担当者にも快諾いただきました。未来塾でベンディングになり、もう当該の学生も卒業されたでしょう。何もなかった損失。

- 大学で共創推進に携わる身として、B3、M1 の学生さんへ MOT の経験やスタートアップへの理解の共有の場をこしらえることは大事だと思いました。
- 我々が少し上から目線すぎなかったかなというのがオンラインで外から見ていると気になりました。また、話が長い人か多かったようにおもいます。
- 都市部/地方の地域性の違い、国立/私立の違い、などがあるように思う。事前に学生気質などはわからないと思うが、学生が発言しやすい企画・準備・場づくりが大切だと思う。
- こうした大学/学生と社会とキャリア～知の循環～の場づくりは第三者中立それも実務の達人 NPO の TMJ らしさで、できる、「社会課題解決」の実効性ある一方策と思います。企業側の課題は、「特に技術系人材採用・確保」と思います。企業スポンサーを募り、横展開して間口を拡大すれば、TMJ は、企業と大学・学生の課題解決の両方で貢献できるという、方向性を感じました。簡単ではないとおもいますが、アンケートを材料に次に出来るステップは何かを話し合ってみてはいかがでしょうか。

5)今後のフォーラムで、期待すること、改善点があれば教えてください。

【会場参加】

- 毎回でなくてもいいけれど、双方向性は大事にしたい。
- 交流型はとても良いと思いました、が、縁故でないと難しい面もあるので、スコープを明確にして企画すべきと思いました。
- 会場の Wifi 環境の事前確認はもう少し必要かと
- 今回、オンラインでの実施は現実的にかなり無理があったと思います。今回目的とした共創をリアル会場とオンラインで実施するならば、オンラインへの配慮を相当にしなければなりません。リアル優先としているとしても、オンライン参加の方の期待へも配慮する必要があったと思います。オンライン参加者へのちょっとした声かけでも十分です。
一方で、学生との共創は我々がこれまでの蓄積を提供できる一つの大きな活動になると思います。
- 今回のフォーラムは大学生を対象にテクノ未来塾がアウトプットする場だったと理解していますが、参加した塾生の感想を見ると、塾生が学ぶインプットの機会と理解されていた方もいらっしゃると思います。アウトプットとインプットの比率が 10:0 といったことは無いと思います(アウトプットすることで得られることも多いと思いますので)が、フォーラムを案内する際にフォーラムの目標・ゴールを示すようにすれば良いように思いました。

○これまでリアルとオンラインの両方の参加体験を申し上げますと、リアルの参加者がつついオンライン側に参加者がおられることを忘れてしまうことです。映像が見えにくい点や発言者の声が聞き取りにくいケースがしばしばあります。

そこで一案ですが、名古屋フォーラムや小田原フォーラムを担当された中條屋理事と中村理事にノウハウや留意すべきポイントをご提供いただき、全員で共有するようにはいかがでしょうか。

○徳島名産「阿波尾鶏」美味しかったです。また美味しいものがあるところで、地元の人と交流できる企画を期待しています！

○自分では出来ない非日常を体験する機会に出会える場を続けてほしい。フォーラムではなくても学生との繋がりを継続できればと思います。

【オンライン参加】

○テーマや参加者(学生)の観点からオンライン参加が難しいのであれば、ハイブリッド開催では無く、リアル参加のみにした方が良かったように思う。オンラインではほぼ参加している意味が感じられなかった。

○中沢先生をはじめ、TMJ 企画メンバーの方々に心より感謝いたします。

○基本的なことをきちんと進めてください。開催案内を正確に書いてください。compass 連絡を正確に書いてください。誇大広告は不要です。

ハイブリッド運営ノウハウは属人的にせず、組織としてノウハウを蓄積してください。前は I さんが仕事したから上手いって、では言い訳にならない。一般的な参加者は、前回までと同等以上のクオリティを期待します。

できれば、アンケート結果を情報共有をお願いします(今回だけではなく)。

○大阪公立大学でも、梅田、杉本、なかもずのどこかでスケジュールを確保して開催したい。できれば、B3、M1 の進路を決めたい時期と、学祭、学会、論文締め切りの時期を外して。

○双方向の活発なディスカッション

○企画内容、テーマ、外部講師の有無、会場、幹事、などの点で毎回、趣向が異なるところが刺激的で有意義。改善点は取り入れつつ、大胆な発想で「非日常を実験する」フォーラムが続くことを期待します。超多忙な中で開催に尽力されている担当理事・幹事の皆さまには特に感謝。

○TMJ が「ジェネレーションギャップからジェネレーションスパーク」といったようなプラットフォームになることを検討されてはいかがでしょうか。